

『講左衛門さん、今日は第七番霊場鏡池の紹介でまっすん。この池には、名前が二つあるでまっすん。どうゆうことでまっすん。』

『本当にクニマッスンは、勉強しておるのう・・・第七番霊場の正式な名前は、このしろ池というのじゃ。元八湖霊場が再興された当初は、「このしろ池」と言われていたんじゃが、昭和9年国

の天然記念物指定の時より「鏡池」の名称が使われるようになったようじゃ。「このしろ」という漢字は、魚へんに祭りと書き、この魚は、富士山のおはちの中の、「このしろ池」に住んでいるといわれておるんじゃ。このしろ池の和歌を詠むと、正式名称が、鏡池ではないことが分かるんじゃよ。紹介しよう。』

東叡山御免 第七番霊場 このしろ池（通称 鏡池） 麻那斯（マナシン）竜王

そこすみて のどけき池は これそこの しろたえの雪の しずくなるらん

意味 底まで澄んで、のどかに水を湛えるこの池は、富士の御山の頂の、このしろ池の池水が雫となって湧き出している尊い池だ。

「麻那斯」とは、サンスクリット語で、「慈心」という意味です。日照り続きの時に、人々が七日間祈り続けると、雨を降らして大地を潤してくれる、慈悲深い竜王です。

『和歌に詠まれている、「富士の頂のこのしろ池が雫になって」とは、どのような意味でまっすん。』

『春になると、山頂の雪解け水によって突然姿を現す池が、このしろ池なんじゃよ。幻の池とも呼ばれておる。この池の水は、富士山頂で姿を現し、その後地中深く流れて、麓に湧き出したのが、「このしろ池」だと詠んでおるんじゃ。また、八海の中で唯一逆さ富士の綺麗な池であるから、湖面に映る山頂と、お鉢の中のこのしろ池、富士が逆さになり、このしろの水が雫となって落ちた池だと、和歌でよんだんじゃな。ロマンがあると思わんか。』



『感動でまっすん。池を巡っても、和歌の意味を知っているのと知らないのでは、大違いでまっすん。尊い池でまっすん。』

『「このしろ」は、かぐや姫伝説に登場すると、全く違った意味なんじゃ。忍草は、かぐや姫伝説とも、深い関係があるんじゃが、またの機会にするとしよう。その時に、「このしろ」の話もしようかのう。』

『講左衛門さん、次回はいよいよ、第八番霊場菖蒲池の紹介でまっすん。忍野八海の紹介も終わりです。』

『クニマッスン、終わりではないぞ。大寄友衛門が作った富士講「大我講」についても、紹介したいからのう。そうじゃ、かぐや姫の話もなくてはならん。忍草は歴史の宝庫なんじゃよ。』

『おいらも、しっかり勉強するでまっすん。友衛門さんの子孫が、現在、様々な調査をしていると聞くでまっすん。新情報を皆さんにお届けするでまっすん。』